

阿多古
祀符 火通要慎

昔も今も用心第一



町家と町を火事から守る

イラスト作成：吉田真知子（大阪成蹊大学芸術学部）

町家で 火事を出さない 広げない

すまい編



京町家ネット

NPO法人 京町家再生研究会・(中)京町家作事組・京町家友の会・京町家情報センター

町家で火事を出さない 広げないための 三つの心得

- 一に用心
- 二に知識
- 三に備え



昔も今も用心第一

用心

建物火災の7割が住宅火災、原因の8割が
うっかり火災、用心第一。
昔も今も愛宕さんのお札は霊験あらたか。

- ハシリは防火上万全、ひきかえ室内は畳、紙、天井板と燃えやすいものばかり。たばこ、ストーブのように火の見えるものだけでなく、熱（アイロン、電気ストーブ）、電気（コード）にも用心。
- 昔は風呂の湯は朝まで落とさなかった。ハシリに消火器を備えるなどの用心を。

できるだけ室内には
火や熱を持ち込まない。
使用するときは火や熱を
ひとりぼっちにしない。

仏壇のろうそくは
お参りの後に消す。
お供え時に服への
燃え移りに注意。

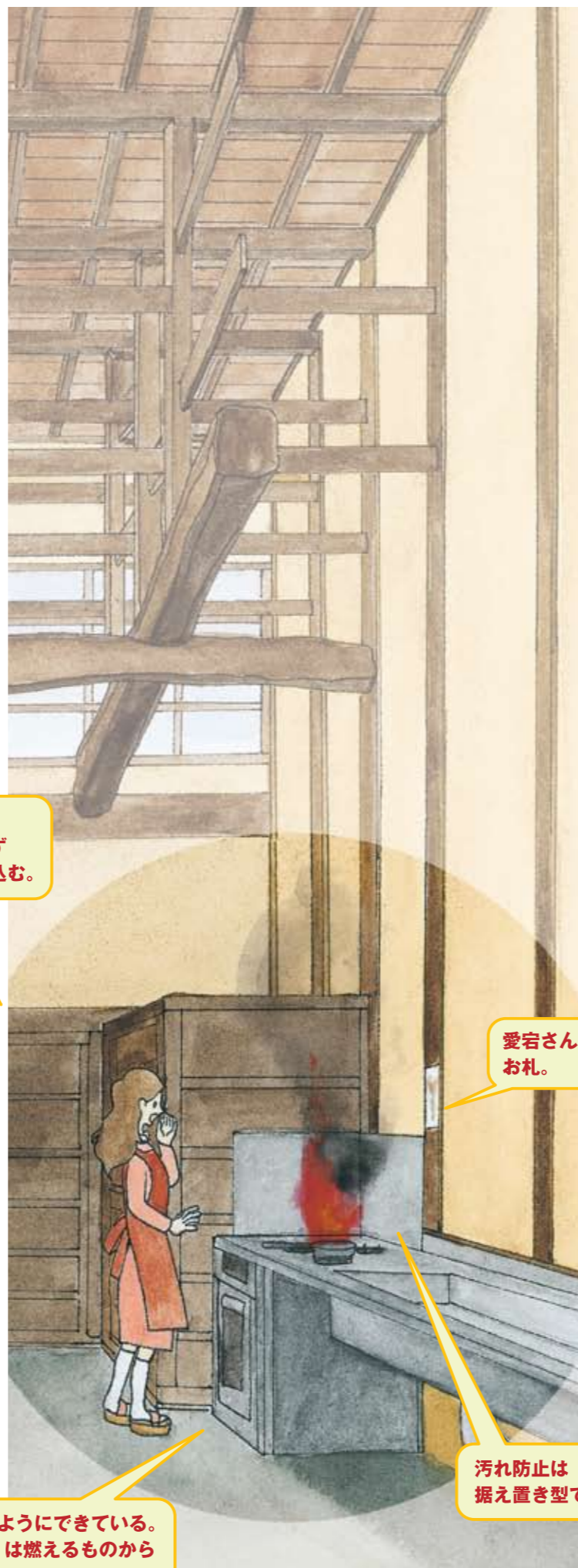
室内はストーブなどから
火が出ると一気に燃え上がる。

ハシリは燃え上がりを起こさないようになっている。
コンロ（魚焼きグリルの熱抜きも）は燃えるものから
30cm以上離せば燃え移らない。

室内との境は土壁、
2階にも窓を設けず
火気使用部を囲い込む。

愛宕さんのお札。

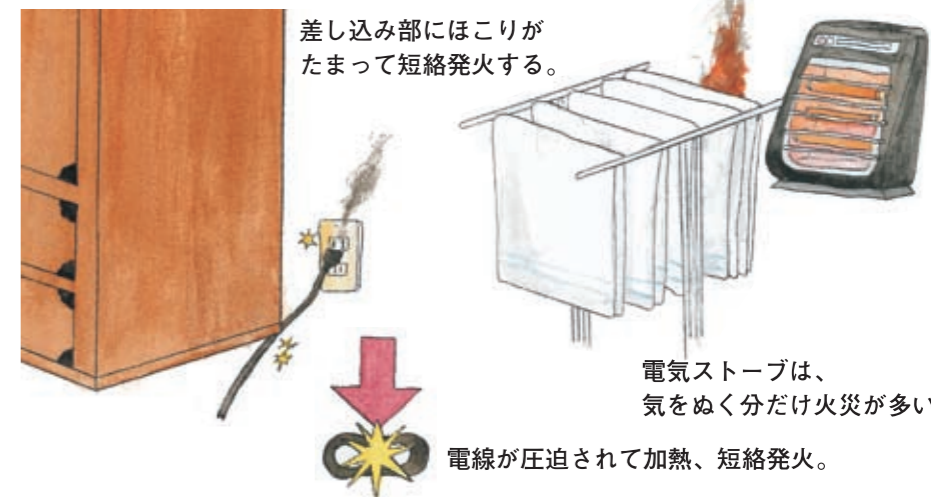
汚れ防止は
据え置き型で。



知識

火の見えるコンロ、石油ストーブよりも
火の见えない電気ストーブ、電気コードの
方が火災発生原因で上位。

- 碍子2線引きは電極が離れていたが、今は2線をビニールで絶縁した1本線、圧迫されると発熱、発火する。
- 石油ストーブよりも電気ストーブが火災発生原因で上位、熱も火元。



備え

消火器も使えなければ宝の持ち腐れ。
火事は一人では防げないし、抑えられない。
地域は地域で守る。

- いざというときには地域（自主防災）、消防団、消防署の連携が不可欠。万が一には地域だけで守る。日頃のコミュニケーションと防火訓練が大事。
- 消火器のABCは普通火災、油火災、電気火災対応のこと。便利で有効な初期消火器具であるが、使用体験がないと役に立たない。
- 火災発生原因の4割近くが放火。直に建物には火はつかず、家のまわりに置かれた燃えるもの、ガレージや物置の戸締まりが原因。夜回りは放火防止に有効。



火事は一人では防げないし抑えられない。